



【陽気なドリアン売りのオバちゃん。その冗談に、この子も上機嫌。何がおかしいの？】

ラヨンは果物天国として知られるところでもある。

近郊には多くのフルーツ・ファームがあり、ここからタイ全土に向け出荷される。

この季節はドリアンの旬でもある。

ここフルーツ・マーケットのいたるところ、ドリアンの山があり、これを求める客で賑う。

その中に入り、オバちゃんに品定めしてもらい、一個（約2キロ）を求める。

キロ200バーツ（約700円）のもので、一寸高級か。

解体し（鋭いとげがあり、これが大変）中身をパックにいれてもらい、早速、車の中で、運転手と共に食す。

なにせ、ホテルの客室エレベーター入口には写真付きで「持ち込み禁止」の張り紙もあるのだ。

そう、知らぬ人にとって好奇の対象は、その臭いであろう。

でも、私には、さして気にもならない普通の匂いなのである。

これまで、タイ以外も含め、何回か食したことはあるが、その強烈とされる匂いの記憶はない。

また、「癖になるほどの美味しさ」という人もいるが、そうかな？

ドリアンは、こういう具合ではあるが、タイの果物の豊富さと味わいに、ここに来てよかった、と幸福感に浸るのである。